



### 小学生コーナー

#### 子どもだけでしっかりと造形活動

造形(表現)の方法はいろいろ。絵をえがく道具を考えても、クレヨン、えんぴつ、鉛の具、ペンなどを思い浮かべることが出来ます。それぞれ道具を使うと、太い線、細い線、にじんだ線、かすれた線、はっきりした線— やさしい感じ、イガイガした感じなどいろいろな表情をもった線がひけます。

いろいろな線の中から、「かたち」にするときに選んだものを選びたいのです。工夫して新しい線を作ることができるかもしれません。「親子コーナー」に比べると、使う道具や材料も多くなるので、よりイメージをふくらませることが出来ます。

「小学生コーナー」は、子どもだけで造形活動に取り組み場所です。同じくらい年齢の子供たちが作業台を囲んで、それぞれのイメージを「かたち」にしていきます。もくもくと作業している子ども、手を休めて構想を練っている子ども— あんな、体のなかに生まれた「なにか」を「かたち」にしようとしているのです。

となりに同じようにイメージを「かたち」にしようとしている仲間がいることは、とても心強いこと。作業をしているようすがたがしに見えていただけ、新しいアイデアを思いついたりします。



【小学生コーナー】では、子どもだけでじっくり造形活動に取り組みます。おとなは入ることができません。外から見学します。

### 継続的に活動する「クラブ」もあります

毎週1回、継続して造形活動に取り組み「こどもクリエイティブクラブ」もあります。50kgの土の粉に水をまぜて、足で踏んで粘土を作るダイナミックなプログラムを行ったり、日常のプログラムではできないことも取り上げます。また、段階を踏んで作業作りの内容を深めていくので、子どもたちも自然に活動するようになります。

小1~中3を対象にした【クレイワーク〜土の覚悟〜】(水曜日)、「ゆかいな造形〜素材の楽しみ〜」(水曜日)、「絵本の世界へ〜イメージする楽しみ〜」(水曜日)、小4~高3を対象にした【ハンズワーク〜創造探検〜】(水曜日)、「絵・造形ワークショップ」(水曜日)のほか、親子(5歳児)を対象とした【親子アート〜わくわくワーク〜】(水曜日)があります。



【クレイワーク〜土の覚悟〜】

## 見えない“なにか”を“かたち”にする

【こどもの城】造形スタジオ 親子コーナー/小学生コーナー/ブレイングボード

感じたこと、思ったこと、考えたこと— 私たちの体のなかに生まれた、目に見えない“なにか”を“かたち”にしてほかの人に伝えること、それが(造形(表現))。絵をえがいたり、いろいろな素材を組み合わせて、その方法やスタイルはたくさんあります。造形スタジオでは、“伝えたい”ことを“かたち”にする楽しさやおもしろさを体験できる、さまざまな造形(表現)遊びのプログラムを行っています。

造形スタジオは大きく3つの空間— 「親子コーナー」、子どもだけで作る「小学生コーナー」(土・日曜日・祝日、特別期間などに開設)、大きな絵をえがくことができる「ブレイングボード」— に分けられていて、【こどもの城】に遊びに来た人はだれでも造形の楽しさを体験できる場所になっています。このほか、系統的に造形体験をする「こどもクリエイティブクラブ」もあります。

### 親子コーナー

#### 見る、聞く、さわる— 感じる力を大切に

造形スタジオに入るとすぐに、親子で造形遊びを楽しむ「親子コーナー」があります。見る、聞く、さわる— 一体のすべての感覚をおしえて、いろいろな造形体験ができるプログラムが用意されています。

ふだん見慣れていない紙や土などの材料も、ちょっと手を加えたりすることで違ったものに見えてきます。乾いた土に水をまぜていくと粘土のようになる— おたまりまえることですが、注意して見ていると、まぜる水の量によってやわらかさ(かたさ)や色が違うことに気づきます。形のあるものだけではなく、光や影のようなのもからも、いろいろな発見ができます。

鼻の回りにおるさまざまなものことから、いろいろなことを感じとり、感じたことを生かして「かたち」にしていきます。遊びに来た子どもたちが、自分からなにかを作ってみようという気持ちになるように、入り口や造形スタジオの飾り付けや展示も工夫しています。「親子コーナー」は、はざみが持て、スタッフの話を理解できる、3歳くらいから上の子どもと保護者を主な対象にしています。「大人は、子どもが造形活動をしているのをみまもりながら、こんなことまでできるようになったんだ、こんな感じ方をしているんだなど、ふだんは気づかない“なにか”を発見してほしいと思います」と造形スタジオのスタッフ。

### 紙にもいろいろな表情があります

例えば「紙」、しわ(折り目)ひとつないピンとした紙を、わざとしくしくしゃくしゃくしてみます。見た感じ、さわった感じも別ものになります。布に近しい感じかもしれませんが、文字や線は書きにくくなりますが、折ったり丸めたりしている形を作りやすくなります— 一緒に、こんなふうにもなるんだ、新しい、紙との出会いです。しわくちゃの紙が、意外に壁にくいくいにも気づきます。紙が「せんい」がからみあって、できていることに気づく人もいるかもしれません。



しわくちゃになった紙を見て、手でさわって、ピンとした紙とちがった“なにか”を感じてほしいのです。あたため、やさしく、やわらかさ— それぞれに生かして、「かたち」にしています。

### ブレイングボード

#### 太めの筆でのびのび大きな絵を描く

「ブレイングボード」は大きな画いかべ。大きな絵を自由にえがくことができます。おとなも子どもも、ほとんどの人が絵をえがいてみたい— “なにか”を“かたち”にしたいという気持ちをもちたいと願います。その気持ちを大切に、「子どもたちにのびのびと絵をえがいてもらおう」と作られたのが「ブレイングボード」。

マグカップのような入れ物に絵の具を入れて、ちょっと太めの筆でえがけるようにしています。のびのびと絵がえがけるようにしています。



【ブレイングボード】は平日は1日1回、土・日曜日・祝日などは1日3回、水で絵を洗い流します。

